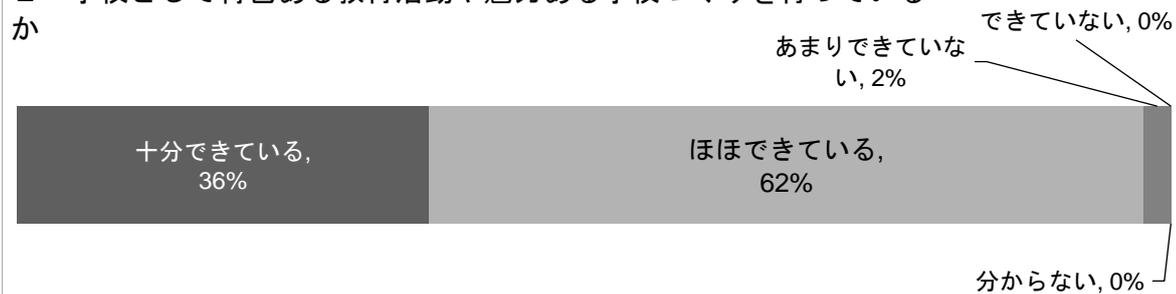


令和5年度 教育活動に関する職員アンケートまとめ

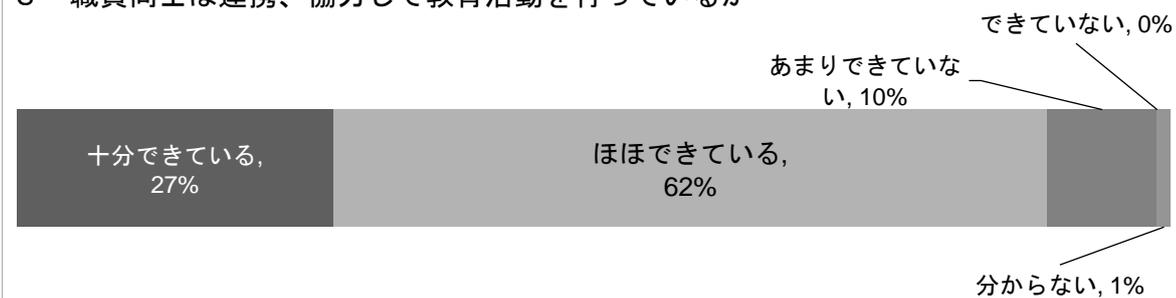
1 教職員は学校経営の重点を学級の経営方針説明等の際に保護者に伝えているか



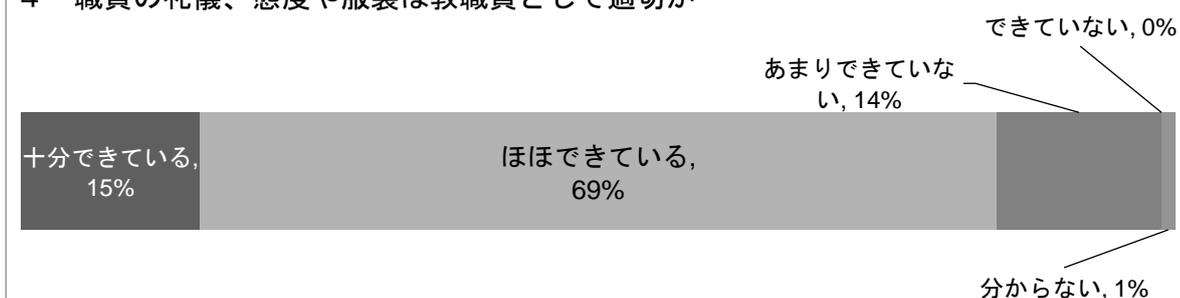
2 学校として特色ある教育活動や魅力ある学校づくりを行っているか



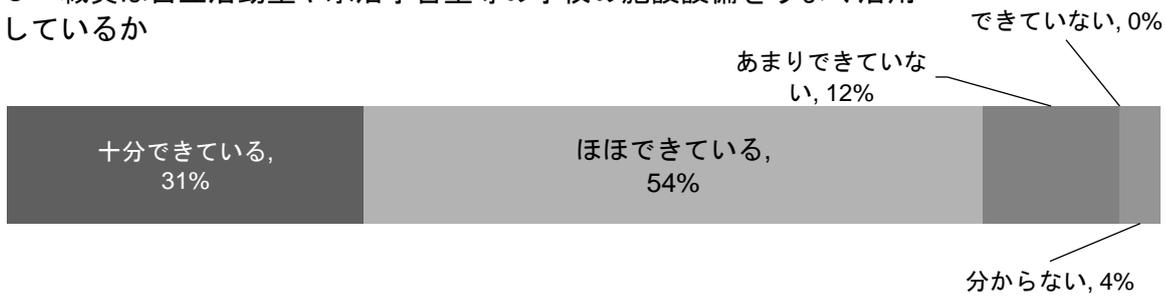
3 職員同士は連携、協力して教育活動を行っているか



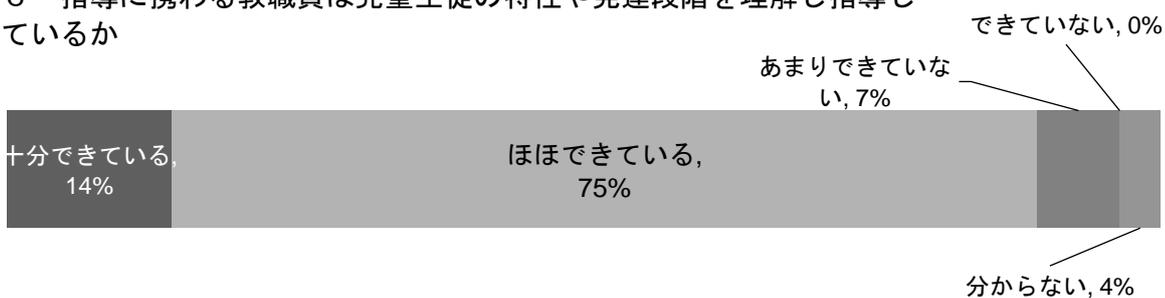
4 職員の礼儀、態度や服装は教職員として適切か



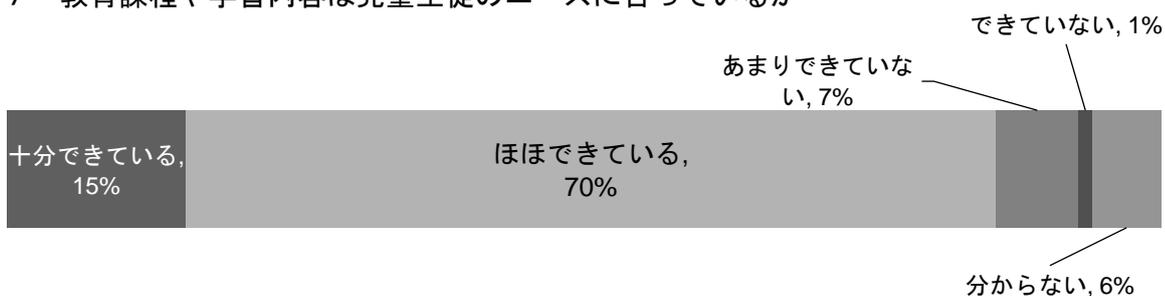
5 職員は自立活動室や水治学習室等の学校の施設設備をうまく活用しているか



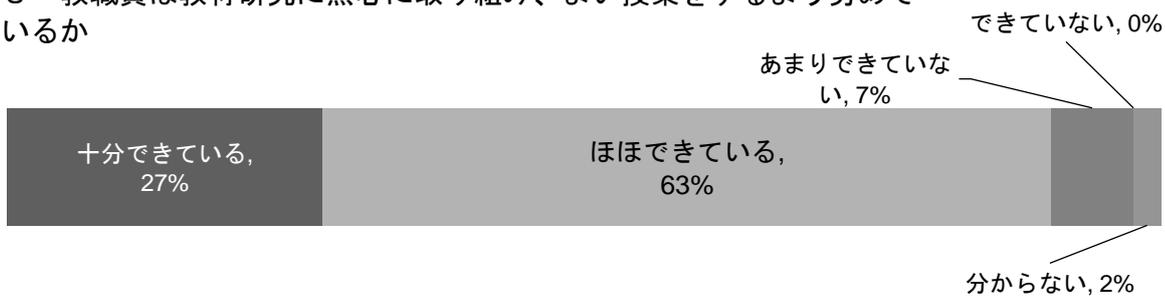
6 指導に携わる教職員は児童生徒の特性や発達段階を理解し指導しているか

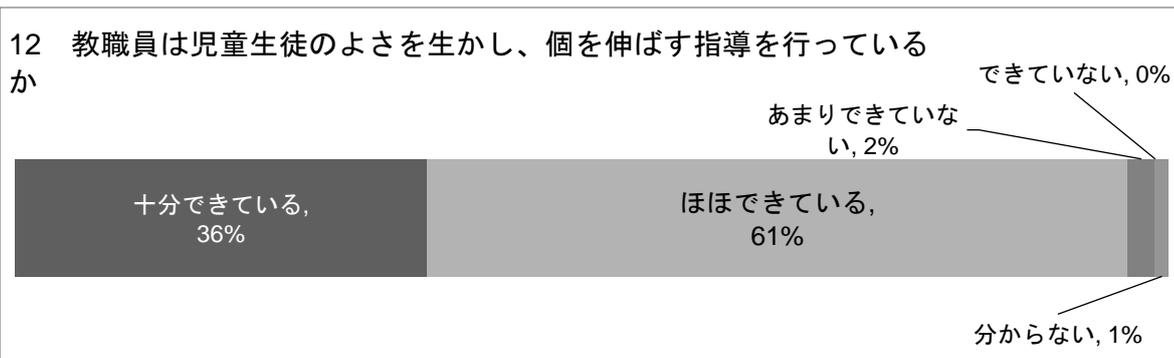
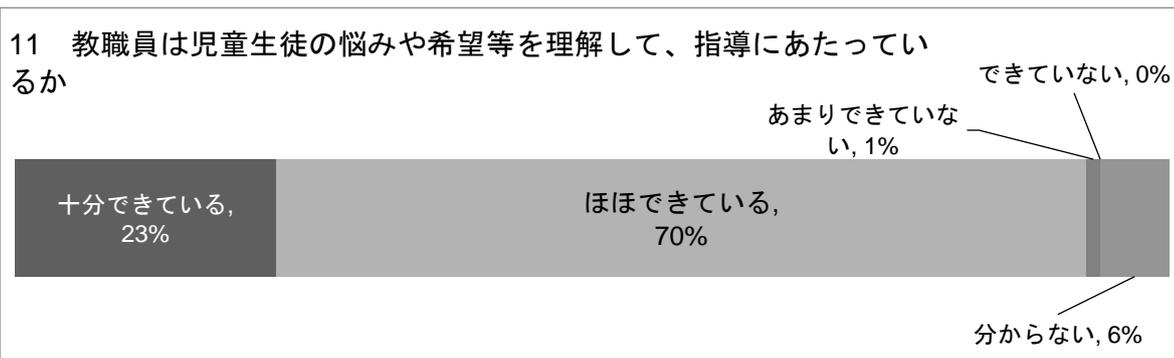
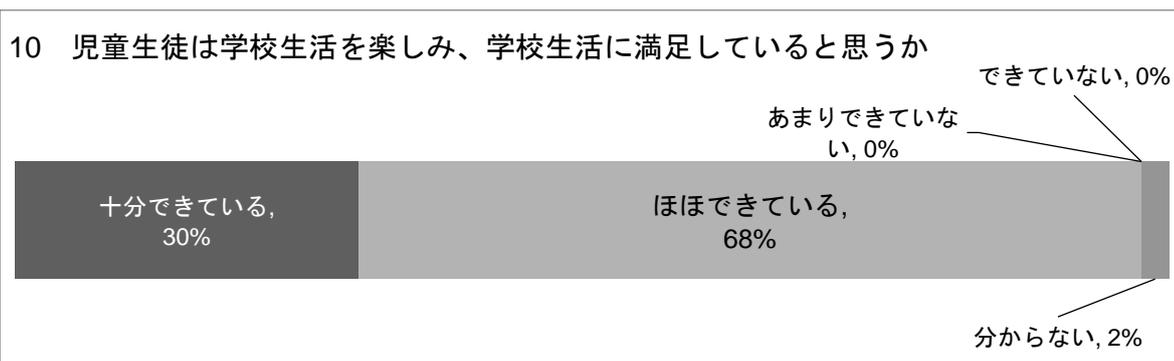
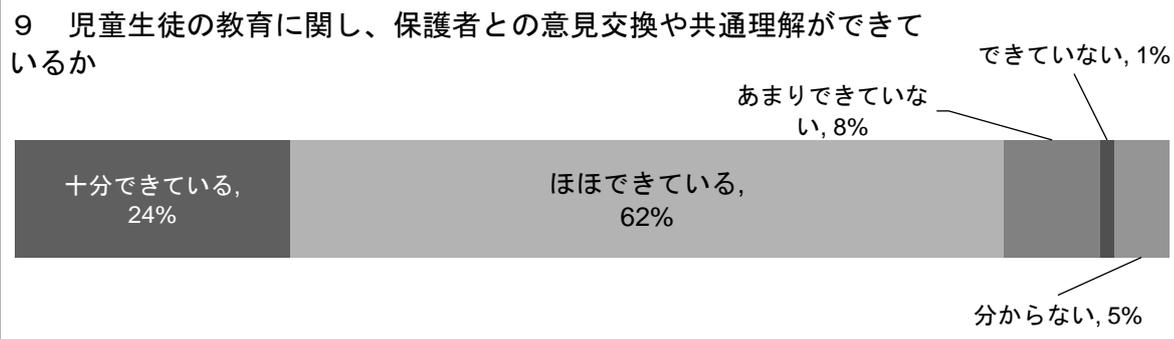


7 教育課程や学習内容は児童生徒のニーズに合っているか

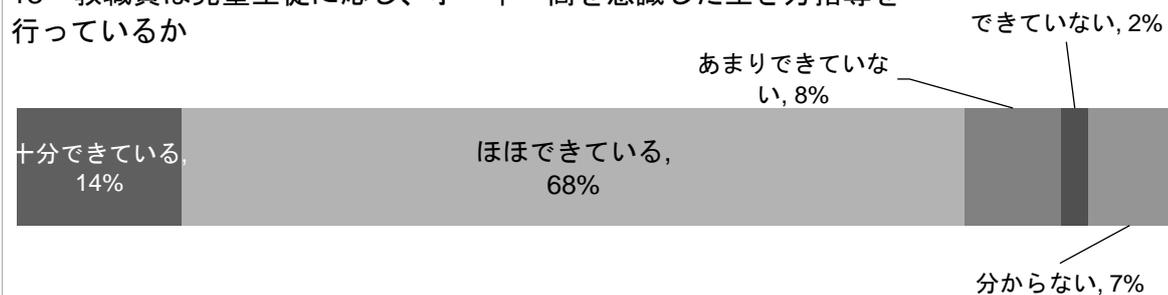


8 教職員は教材研究に熱心に取り組み、よい授業をするよう努めているか

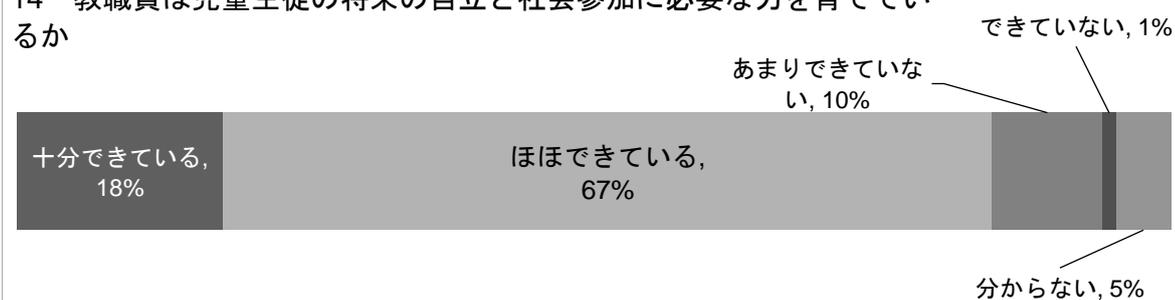




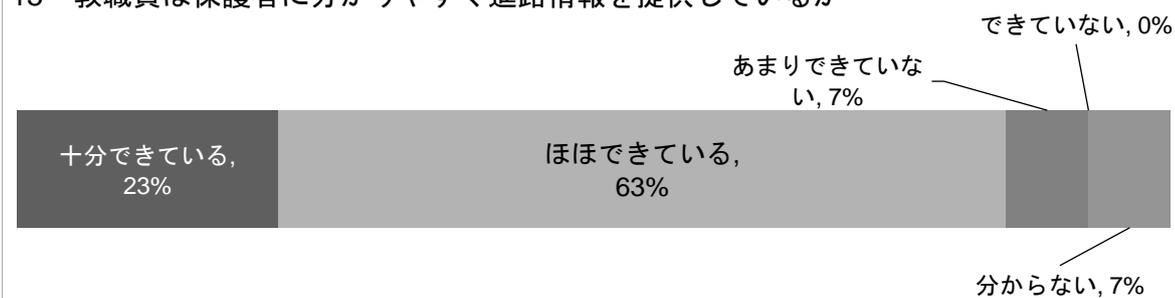
13 教職員は児童生徒に応じ、小・中・高を意識した生き方指導を行っているか



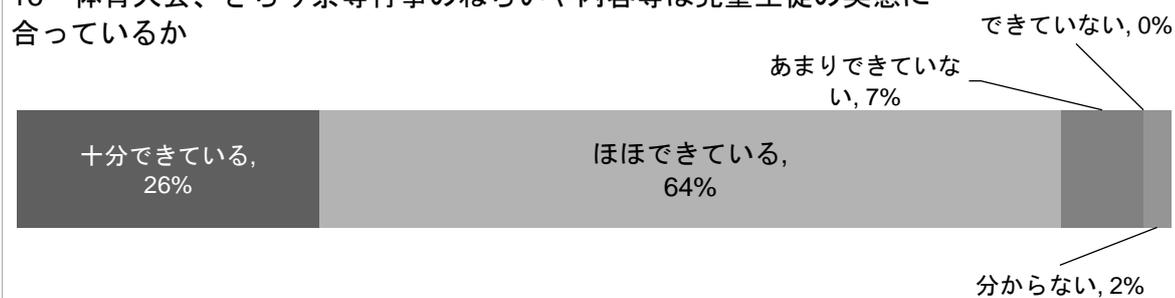
14 教職員は児童生徒の将来の自立と社会参加に必要な力を育てているか

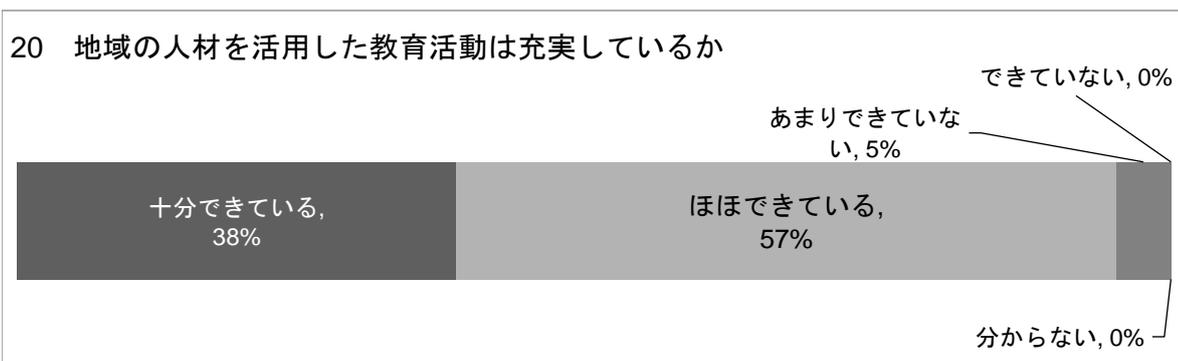
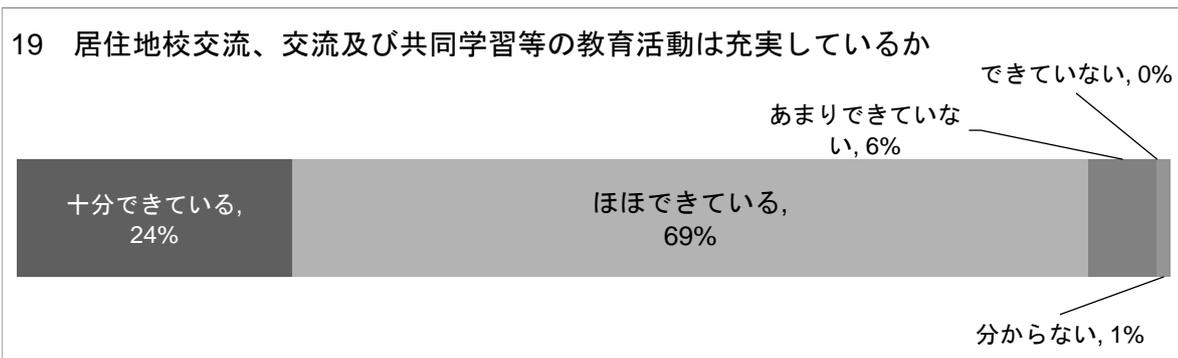
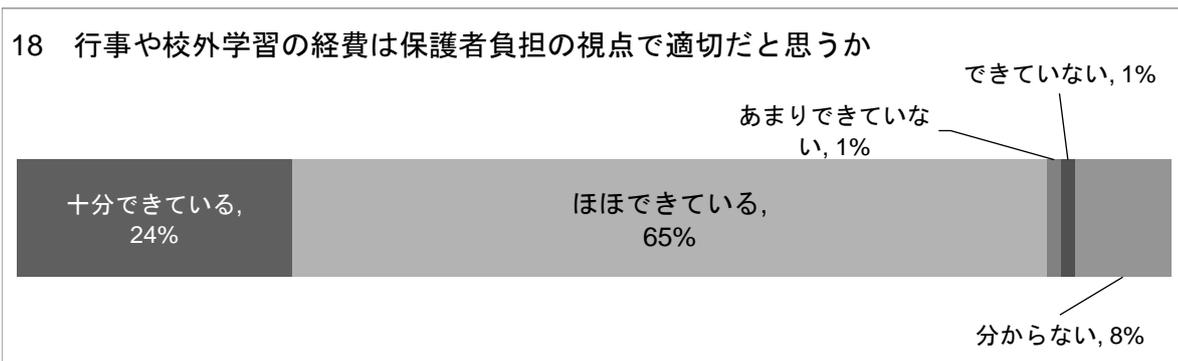
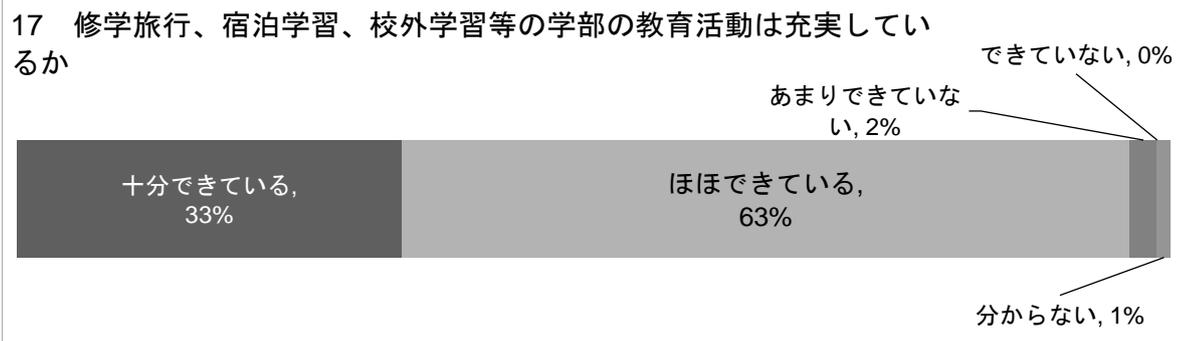


15 教職員は保護者に分かりやすく進路情報を提供しているか

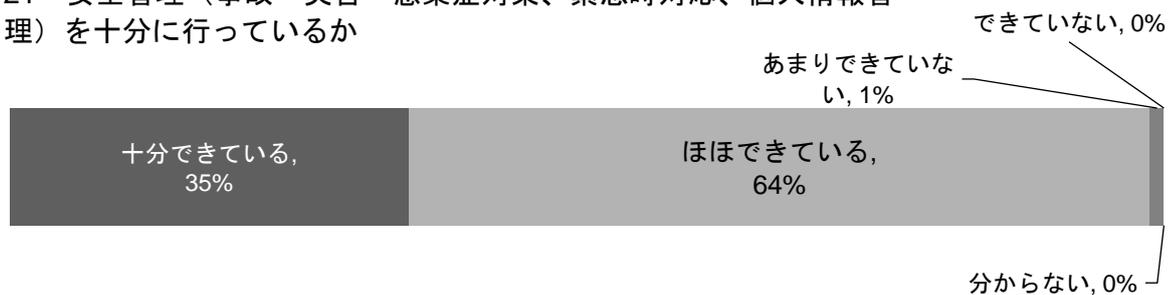


16 体育大会、きらり祭等行事のねらいや内容等は児童生徒の実態に合っているか

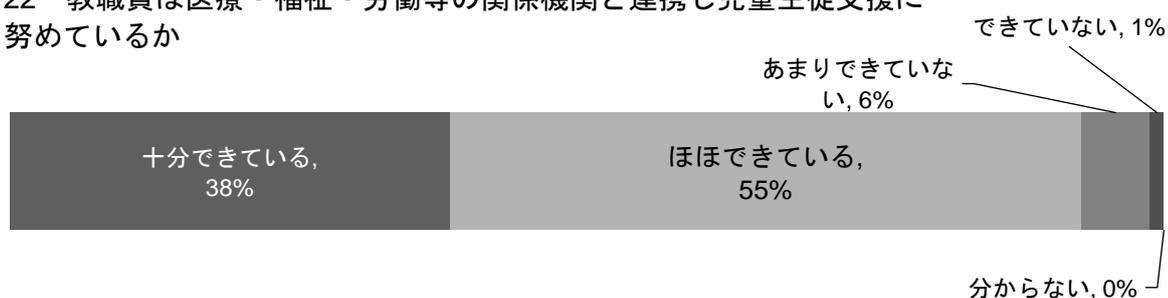




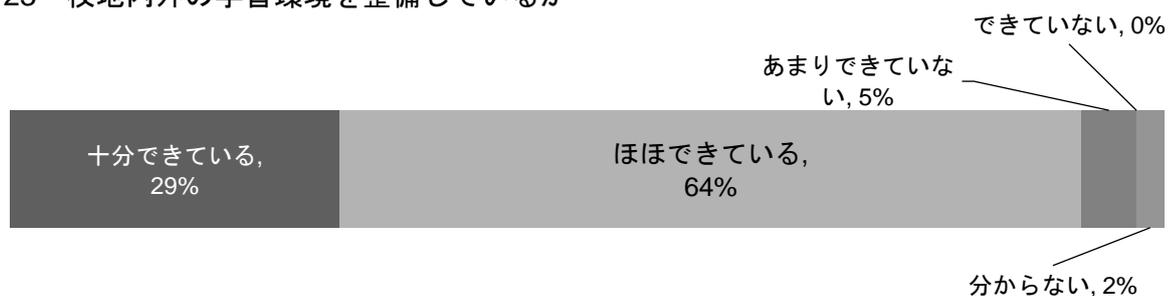
21 安全管理（事故・災害・感染症対策、緊急時対応、個人情報管理）を十分に行っているか



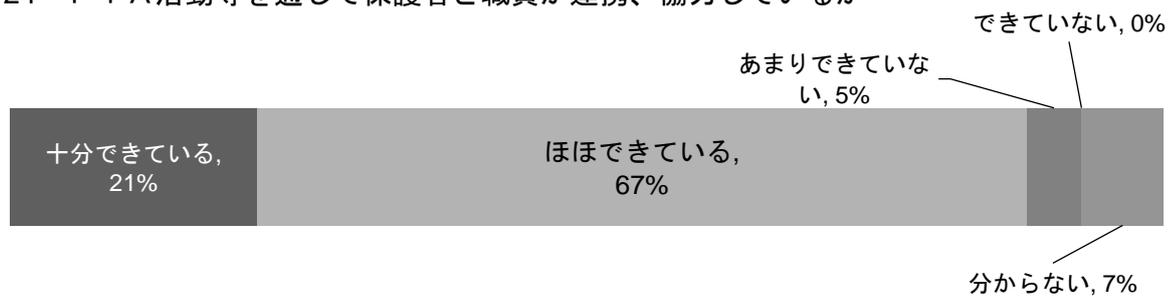
22 教職員は医療・福祉・労働等の関係機関と連携し児童生徒支援に努めているか

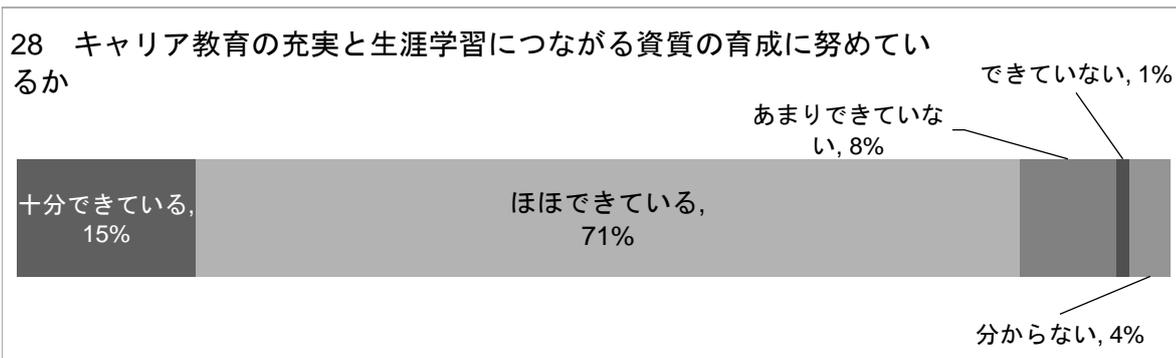
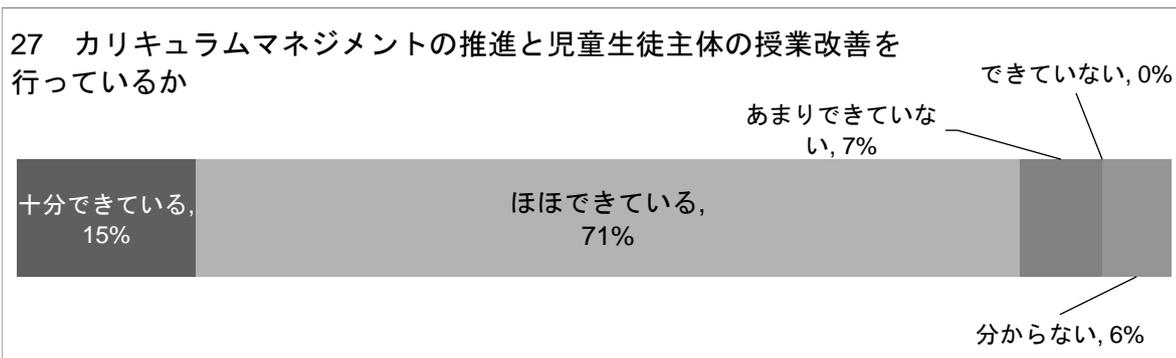
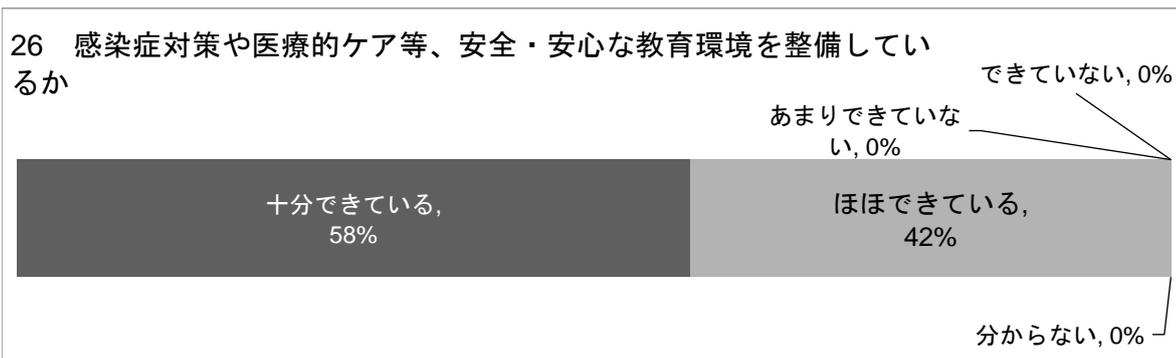
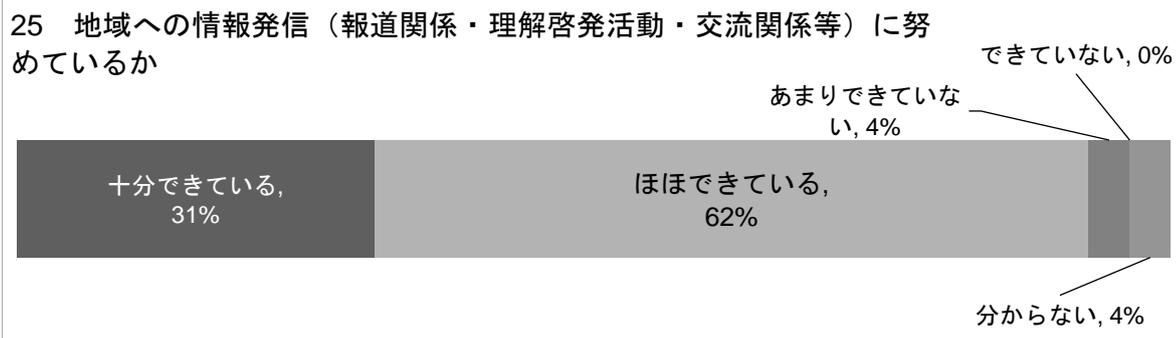


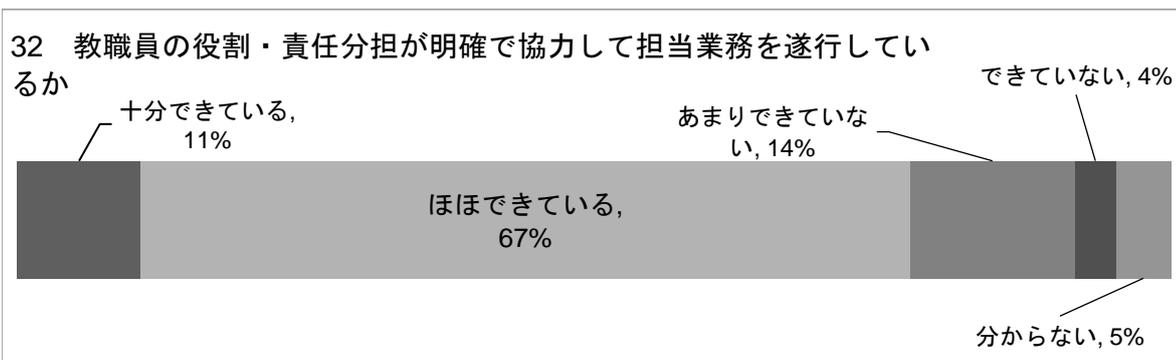
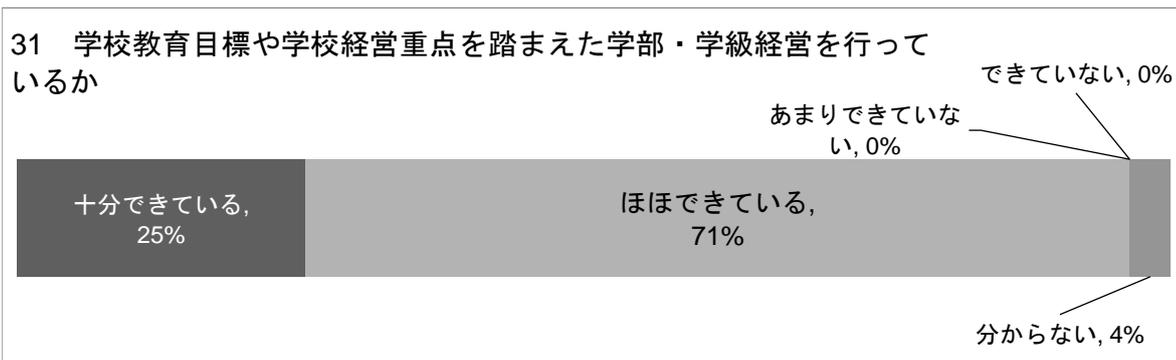
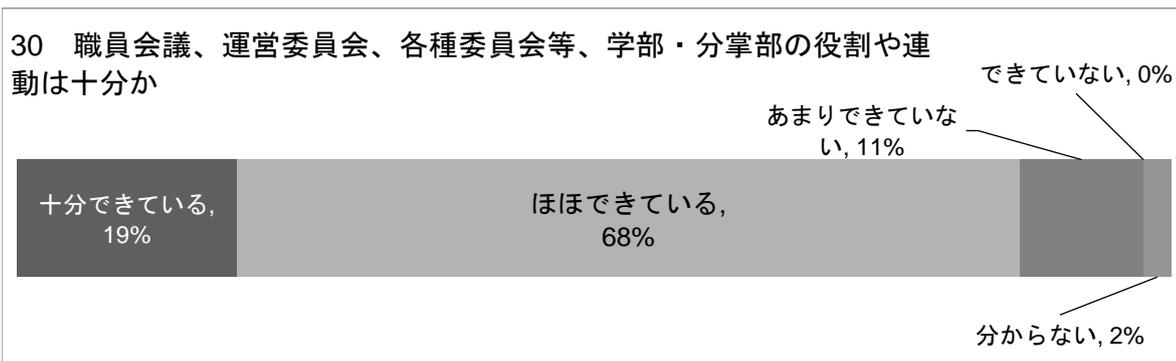
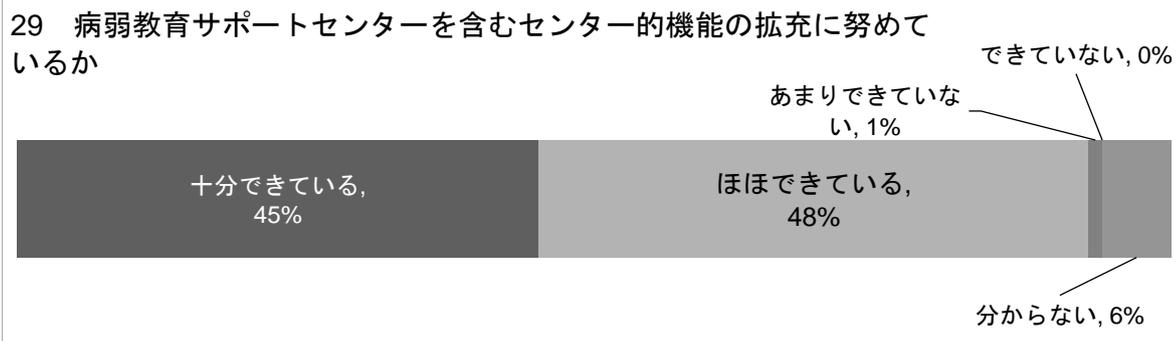
23 校地内外の学習環境を整備しているか



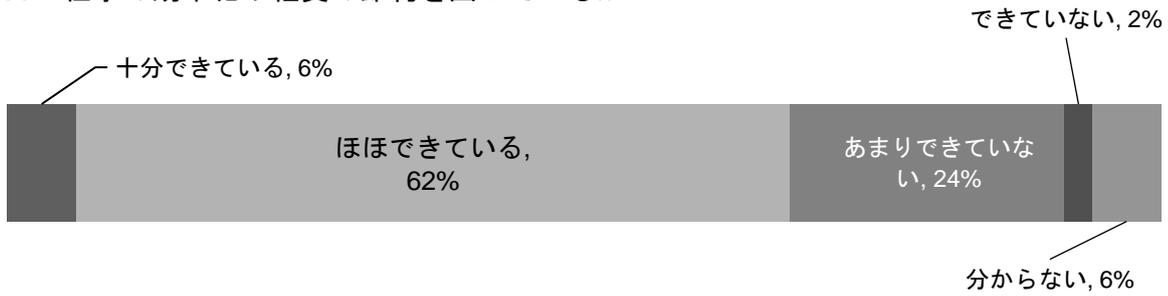
24 P T A 活動等を通じて保護者と職員が連携、協力しているか



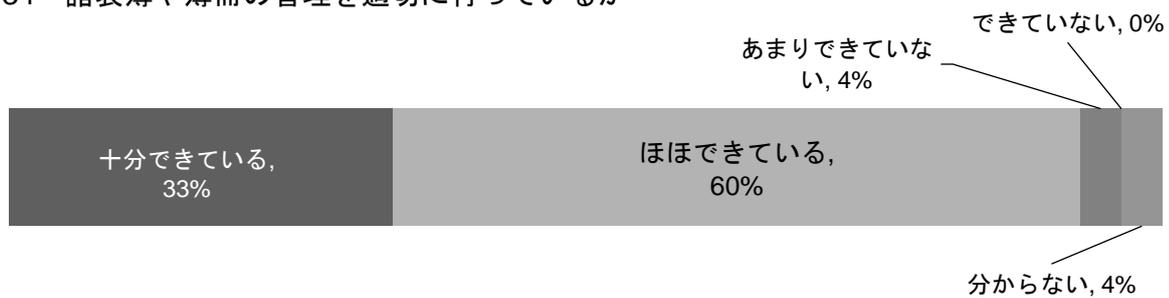




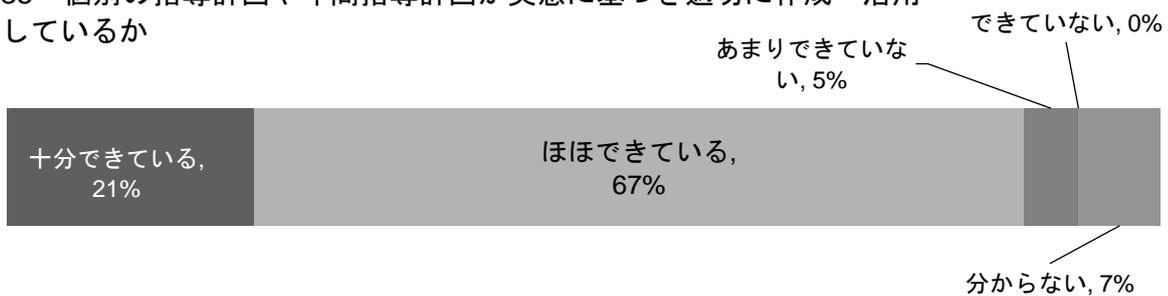
33 仕事の効率化や経費の節約を図っているか



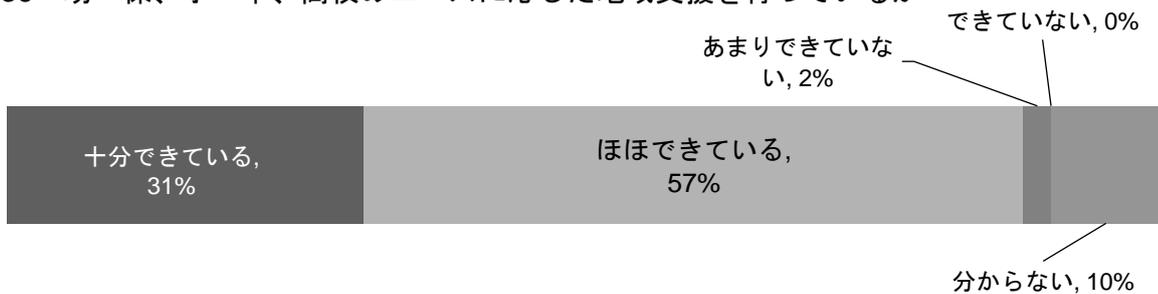
34 諸表簿や簿冊の管理を適切に行っているか



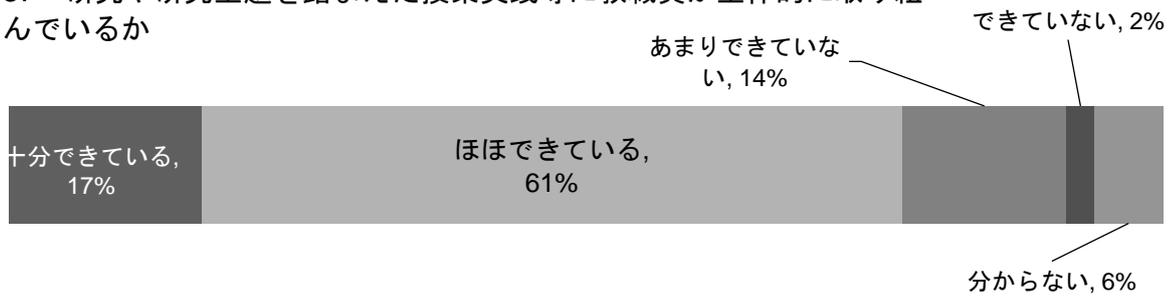
35 個別の指導計画や年間指導計画が実態に基づき適切に作成・活用しているか



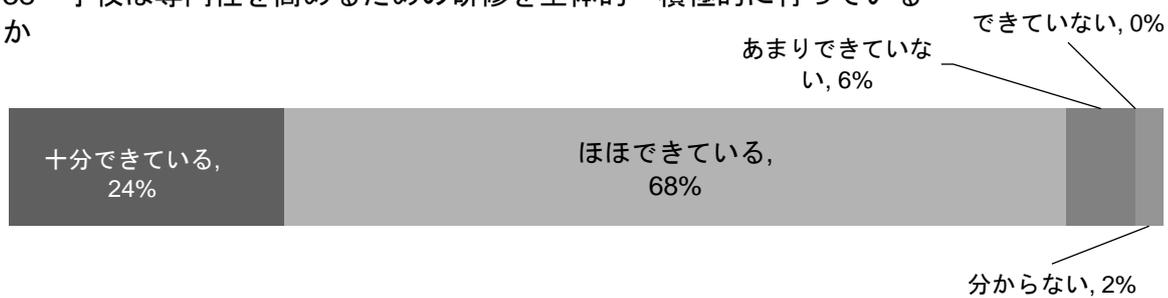
36 幼・保、小・中、高校のニーズに応じた地域支援を行っているか



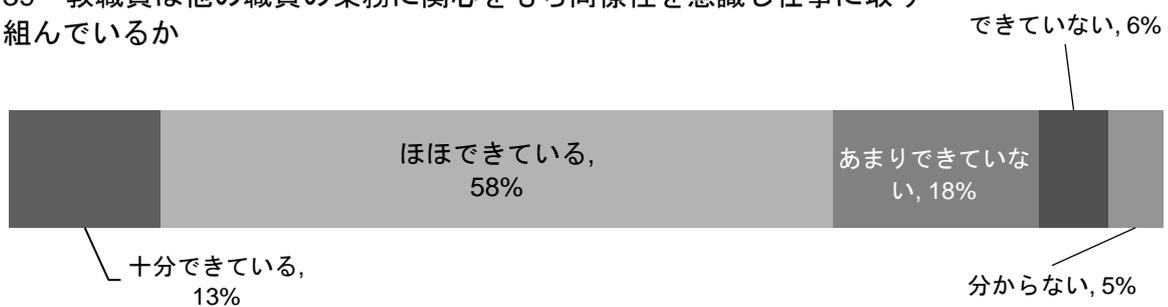
37 研究や研究主題を踏まえた授業実践等に教職員が主体的に取り組んでいるか



38 学校は専門性を高めるための研修を主体的・積極的に行っているか



39 教職員は他の職員の業務に関心をもち同僚性を意識し仕事に取り組んでいるか



◇継続したいことや効果があった取組

- 3：きらり祭のダンス動画は、みんなが一体となって学校祭を成功、または盛り上げようとした気持ちがあらわれていて良かったです。児童生徒、職員が一体になってできるものが継続出来たらいい
- 4：校内で明るく挨拶が交わされるようになり、よかったです。
- 9：個別面談等で保護者に生徒の様子について丁寧に説明するように務めた。
- 11：児童生徒の気持ちに寄り添うことは大切だと思いますが、児童生徒の年齢相応の対応をすることも必要だと思います（気持ちの安定のために、授業中にハグする等は他の生徒への影響も考え、やめたほうが良いと思います。）
- 13、14：中学部段階から、将来の自立と社会参加に向けた進路指導を適切に行っていくことがとても大切であると感じました。
- 14：毎日、継続してたくさんの人と挨拶するように指導してきたことで挨拶が上手になり、自分から挨拶することも増えた。いろいろな人と関わるとい意味でも挨拶を交わすことは大切なことだと改めて実感した。
- 16：体育大会は、各学部での実施が適切である。児童生徒個々の活動・活躍がよく見え、ペースも実態に合わせ、時間の制約もない。かつて行われた大体育館での一斉の運動会は活動面、時間・場所の制約など厳しい。
- 16：全校の行事だけでなく、学部や分掌による活動がコロナ前のように戻りつつあり、いろいろなことをしようとして、慌ただしくなってきたように思います。児童生徒のペースでできるように改めて行事や活動方法を見直していきたいです。とともに、コロナ時と同じような対応をして、職員らへの負担が過重になっている場面も見られます。コロナ時期との切り替えを図るべきだと思います。
- 19：居住地校交流や視覚援学校児童との交流で学びが深まった。継続、充実させたい。
- 19：本人、保護者が希望する居住地校交流は、計画通り実施できた。今後も希望があれば同年代交流や学校間交流を推進していきたい。
- 19：他校との交流、外部専門家の活用など、直接触れ合うことが可能になりつつも、今までのリモートによる交流も行われ、その幅が広がったと感じている。
- 20：ボランティアの「お話のしずく」さん、「民謡教室」の「藤咲慶子」さん、「100万人のクラシックコンサート」「ピクニックコンサート」など、生の朗読、歌声や楽器演奏は、生徒の興味関心が高く、今年度も非常に喜んでいて生徒が多かった。特にⅢ類の生徒は五感に働き掛ける内容で、好きな物、好きな音を新しく見つける機会にもなる。今年度も実際に新しい興味関心の幅が広がった生徒が多かった。是非継続して欲しいです。
- 24：PTAの親子レクリエーションやベルマーク集計活動については、来年も実施したいという意見が多かった。
- 25：インスタグラムへの投稿は保護者等への発信として有効な手段であり、様々な関わりを広げる手立てになると考えられる。しかし、ぼかしを入れた写真だとよさが半減しているのではないかと。保護者の理解を得て、そのままの写真を使えるようお願いしていくことが必要ではないか？
- 26：今後も児童生徒が安心して学校生活を送れるように、感染症対策に努めたい。
- 26：新型コロナが5類になったが、本校の児童生徒の実態を踏まえて必要な感染対策を継続し、安全に行事や校外学習等が実施できるよう、計画されている。
- 29：センター的機能を拡充し、研修会等で情報発信することにも取り組んだ。今後も継続したい。
- 29：本校に転入する児童の情報を適切に提供していただき、交流学习の際に担任同士をつないだりと児童が原籍校と良好な関係を維持できたので、今後もケースによって継続したい。
- 30：図書部で生き方指導関係の図書を並べた際、進路指導部の方から、「コラボして進められないか」と声を掛けていただけたことがよかったです。分掌を越えて連携できることがあれば、取り入れていきたいと感じました。
- 34：出席簿に関して、担当の方々にはシステムと出席簿への書き込みの両方をしていただき、負担が大きかったと思うが協力していただきありがたかった。システムに移行してからも毎月一枚は印刷が必要であるのが現状だが、印刷も必要なくなるとさらによいと思う。
- 35：迷わずに新システムを活用した教育資料の作成に移行できるよう引き続き対策をしていきたい。
- 38：ICTに関する研修が効率的でニーズに合っていて、とても良いと思う。

39：相手の業務の状況を考えたり、意見を聞いたりして、互いに節度ある言動に気をつけるようにすると、業務がスムーズに進むことが多いと思い、気をつけています。

◇改善に向けた意見や提案

4：児童生徒の対応で、必要と思われない場面でも手をつなぐ、体を触るなどをしている職員がいる。人権尊重の点から、1・3組の児童生徒にしないことは2組の児童生徒にもしない方が良い。

4、39：児童生徒に挨拶の指導をしている立場にあるのであれば、職員同士もしっかりと行うべきだと思います。また、勤務時間中は、皆さんお仕事をしているので必要以上の私語は慎み、3校共有のスペースでは、音量なども気を付けられればと思います。

5：個人的に、自活室をもっと活用したいと思います。

6、16：Ⅲ類の児童生徒の発表をどのような内容にするかとても難しいし、時間も限らるとなるとさらにできることは絞られてくるのは仕方がないかもしれないが、みんな同じようなことを発表しているのを見て保護者はどう思うのかなと思った。見せ方を工夫することはもちろんだが、もっと時間があれば1人1人の頑張りを見せられるということであれば、時間配分の検討（必要であればグルーピングの検討）も必要だと思った。

8、12：教科など授業の枠組みにとらわれ、十分に児童生徒のよさや能力が活かされていない授業があるように感じる。日々の授業を丁寧に行いたい。

9、22：保護者と学校との二項関係ではなく、第三者を入れなければ解決しない事柄がある。スクールカウンセラーを配置すべきだ。

14：主体的に活動できるように一人一人に応じた手がかりや教材教具を準備、改善するというだけでも、児童生徒が変わると思います。どの場面も教師に手をとってもらって活動する時間が減るといいなと思います。

14：教師が見守りながら子どもに身につくようにしていきたいですが、難しさを感じる場合があります。安全面も考慮し、保護者の理解を得ていく必要があると感じます。

15：進路指導部で作成している各事業所の掲示は情報が伝わりやすいよう工夫されているが、高等部棟のほうに掲示されているので、小学部の保護者の目につきにくいかなと思う。進路の情報がほしいと書いてくる保護者は多いので、可能であれば掲示場所を変えらるともっとたくさんの保護者の目に留まるのではないかなと思った。

15：進路については、個別面談に進路指導主事も参加してもらい、より詳しく状況について話をしてもらった。

21：避難訓練後の事後学習の内容が、学級によってばらつきがあるため、1、2、3組それぞれの実態に応じた取り上げてほしい内容の例を示してほしい。

22：医療、福祉を活用する視点をもっともれば、支援に広がりができると思う。先生たちの気持ちのハードルを下げて、気軽に福祉と医療を活用してほしい。

27、28、30：カリキュラム（類型）と分掌と学部と、その他にセンターとの連携もあり、構造が複雑かつ大きくて難しいが、類型や分掌の大きな動きが、学部に上手く下りて、反映されていくとよい。また、学部間の連携（キャリア教育）も改善していけるとよい。

27：Ⅱ類型の児童生徒の実態差が幅広く、教育課程について幅広い実態に対応しきれているか考える必要を感じている。

30、32、33：校務支援システムが導入されているのに利用ができていない。せっかく書き込んでいても見ていなかったり、資料を添付していても持ち出ししなかったりして時間の無駄や紙の無駄等が多いように思う。変化する社会にもっと職員が対応し、利用しようと努力する姿勢を全職員で見せるべきだと思う。また、議事録などを音声化し、記録作業の時間を削減することも業務の効率化につながるのではないかな？

30：昨年度自活部報のアンケートに疑問を呈したが、集計されず、なかったことにされた。耳になじみのよいものだけを聞くアンケートは不要

32、33、39：仕方がないのかもしれないが、極端な場合や部署は改善していきたい。

32、39：欠員が出ていて、現在いる職員でなんとか回している状況が続いていて改善を願っている。出勤している人が自分の業務の他に休んでいる人の業務も行っているのが常態化していて、仕方がないとはいえ、それが当たり前になっているのは問題があると思うし、このような状況が続けば、今現在、出勤している職員もこのあと体調を崩す可能性も出てくることも予想される。すでに配慮されているかもしれないが、TTの方が長期で休むことになった場合は、バス添乗や日番をやらなくてもいいなど（これくらいしか思いつかないし、微々たることかもしれないが）、配慮があってもいいと思う。

32、39：業務や児童生徒に関わることについては、スムーズな業務の遂行、働きやすい職場のためにも、報告・連絡・相談、返事は全職員が意識して取り組んだ方がよい。

32：業務内容、分担については、かなり偏りがあるように感じる。担当者がいても、自分の業務であると認識していなかったり、自分の業務でない内容がどんどん回ってきてかなり負担に感じた。一人が受け持つ業務内容について、見直していただきたい。

32：教職員の役割・責任分担が明確で協力して担当業務を遂行しているかT2以下に教諭の方がたくさんいらっしゃるのに、一人学級の担任を臨時講師がするのは、臨時講師に立場以上の責任負担がかかっていると思います。T1は全て教諭が担うべきではないでしょうか。

32、39：私自身も全ての業務を把握している訳ではありませんが、自分も含め、「誰かがしているだろう（やってくれるだろう）」という感覚でいたのだなと覚えることがあります。当てにしていた人が、何らかの理由で不在のときに慌てふためく場面に遭遇することがありました。また、自分でやってしまった方が早いと思って一人で背負っている先生もいて、気付かず申し訳なかったと思いました。（自分もそうして動いてしまったことで、業務内容を共有できなかったことが反省です。）業務が自分の手を離れると他人事になってしまうことも、気を付けたい点だと思います。

33、39：一部の職員に業務量、精神的な負担がかかりすぎている。偏りのないようにしてほしい。

33：校務支援システムの活用により校務の効率化や簡素化をうたっているが、一部の職員の負担が倍増しているように感じる。システムは職員室のPC以外でも活用できないものか。

33：効率化を図るために校務支援システムやICTが活用されていると思う。一方、Excelファイルを開く、システムを閲覧するだけの作業にとっても時間がかかり、数分で済む業務にかなり時間を割いていてタイムロスが多い。作成しなければいけない書類を絞る、校務支援システムに掲示する内容を絞るなどしたい。重いファイルなど、開くのに時間がかかるので見ない、ということにもつながっているのではないか。

37：今年度は各類型縦割りで研究を進めました。他学部の様子を知るよい機会となりましたが、自分たちの学部の授業改善について一年を通して考え、取り組むことは希薄になってしまった感じがします。軸足は、あくまで学部の研究においてはどうかと思います。その上での他学部の指導案検討会、授業研究会への参加を考えてはどうでしょうか。ただ、指導案検討をする、授業を見るところではなく、各学部を貫く教育課程編成のための視点の設定もあるとよいと思います。そのためには、各学部の累計毎に研究が推進できるよう、研究部員を増やしていただきたいです。類型ミーティングも、研究の一翼を担う役割があると思います。うまくリンクさせて、みんなで進むべき方向を確認しながら、授業改善に取り組んでいきたいものです。

38：今年度は、進路研修が充実していました。他学部の進路研修会にも参加できたことも、ありがたかったです。

38：ICT研修等が充実している反面、肢体不自由や病弱教育でおさえおくべき内容を研修する必要を感じている。

39：自分の業務だけでなく、他職員の業務にも関心をもてるようになるとよい。同僚には互いに一声かける（関係性があるという表示）ことが大切。

39：職員数が多いと人間関係も難しいと感じる。学級、学年、学部など距離が近いところで解決しようとしても解決が難しいこともある。職員のことには管理職の先生方の耳にも入っていると思うが、時々様子を見たり、聞いたり、必要であれば間に入って助言したりしていただければと思う。

39：自分の仕事だけでなく、周囲の人の仕事量を見て、気遣う気持ちだけでも全職員がもちたいものです。仕事の偏りが生じるのは仕方がないことなので、他の職員を思う気持ちだけでも…。

その他：会議が多く放課後の仕事が難しい。特に高等部のⅠ・Ⅱ類が生徒の下校が遅いため、業務分担については、その辺りも考慮して、主任やチーフ、担当教科などを割り振っていただきたい。

その他：2組合同の教科の学習では、複数の友達や教師と関わるのが効果的だった。
その他：関係するところへの報告、連絡は、迅速に正確に行いましょう。